

高山寺

京都北部の山の多い高雄地区は、古くから修行と関係があった。早くも 8 世紀には寺院がこの地で建立されたが、12 世紀には廃寺となった。仏教は、天皇が有力僧の明恵(1173~1232 年)に寺院を建立するよう指示し、1206 年に本格的に再興された。高山寺・「高山の寺院」というその名称は華嚴宗の重要な経典である花胎蔵経の一節に由来する。寺院の読みは「こうざんじ」が一般的だが、正式な読みは「こうさんじ」である。

明恵の仏教の研究と修行に対する献身により高山寺は学問の寺として知られるようになった。彼は芸術愛好家でもあり、著名な芸術家や知識人をたびたび寺院に招いた。彼が醸成したその豊かな環境は、美術や文学が隆盛した平安時代(794~1185 年)から新しい仏教思想が日本に伝播した鎌倉時代(1185~1333 年)に至るまで受け継がれてきた多くの宝物に息づいている。寺院にある絵画、彫像、および文書の多くは、16 世紀の壊滅的な火災という難を逃れ、今でも素晴らしい状態にある。

明恵は日本で茶を普及させたことでも有名である。彼は高山寺近くで茶を栽培していたが、寺では現在も毎年小さな土地から茶を収穫している。全国の茶の生産者は、日本の茶の伝統において重要な役割を果たしたことを認めて、今日まで明恵に敬意を表している。